

## Leadership Development

方策を立ててチームを管理するための重要なリーダーとしての諸原則の概要を学修し、多職種間の協働内でのリーダーシップ能力を修得する。組織としての取組みを行うために不可欠なリーダーシップの概念を理解し、実践的介入、医療提供制度及び臨床教育を創造、実施及び評価するために、臨床評価科学の応用によりリーダーとして発展させる能力を修得する。

## 高度実践看護特論

がん看護および在宅ケアにおける諸理論を学び、それらの関連する諸領域への応用に焦点を当て、その実践とヘルスケアモデルを変革する方法を学ぶ。重要な実践的レベルの理論についてその適用可能性を分析し、これらの理論に基づいて実践のためのモデルを策定する方法を修得する。さらに、臨床ケアや治療計画について交渉し、ケアを修正しつつ医療提供者と患者の違いや患者・家族の期待に対応するために活用できる枠組みや方法を修得する。また病院・在宅と連動する包括的ヘルスケアマネジメントと多職種連携・協働におけるリーダーとしての具体的方策を探求する。

## 高度実践看護演習

ヘルスケアマネジメント、リスクケアマネジメント、アウトカム評価、多職種間でのリーダーシップ、ケア実践の項目について演習を通して理解を深め、その方法を修得する。

## フィジカルアセスメント及び医療技術演習

フィジカルアセスメント、診察・診断・治療技術の演習を通して、実施に必要な基礎的知識の理解や思考過程、実践能力を修得し、全人的なアセスメントおよび臨床推論を行う。技術習得にあたっては、知識を基盤にした技能の習得でなければならない。また、技能演習では、グループ演習の形態で行い、グループの他者のフィジカルアセスメントや医療技術を批判的に観察し、術者に適切なフィードバックを与えることのできる能力も開発する。この他者観察を行うことで、「人の技見て、我が技直す」という内省的実践能力をも涵養する。

## 職種横断的ケーススタディ演習

がん患者に関連する症例カンファレンスに参加し、高度実践看護師としての役割とカンファレンス内におけるケア情報の提供の方法を修得する。また、CPC：clinico-pathological conference 臨床病理検討会に出席して、基礎医学の知識と臨床症状・経過を結びつけて、病態生理を深く学び、鑑別診断・臨床判断の力をつける。

## 総合診療(プライマリケア)・在宅ケア実践

実習の到達目標レベルは、一般的な傷病に対応する基本的能力に必要な知識・技術、治療(処置・薬物)・面接・管理(サマリー等を含む)について修得する。

頻度の高い症状判断、緊急度・重症度の高い症状・病態判断、判断が求められる疾患・病態判断について、患者の症状と身体所見、簡単な検査所見に基づいた鑑別診断、初期治療を的確に行え、総合医やがん専門医と判断を共有し協働する能力を培いながら、疾病管理、健康管理、教育に必要な内容を実践する。

健康状態に関する情報(面接情報、フィジカルアセスメント情報、検査情報、画像情報)を過不足なく

入手し、得られた情報に基づいて、重症度と緊張度とを的確に判断しつつ、適正な臨床推論を組み立て適切に対応する能力を修得する。

在宅の現場で、一人ひとりの患者の個別性を認識し、患者と家族さらに患者と地域社会との関連の中で、在宅での患者のQOLの向上を図るための看護実践を経験する。在宅での多職種連携協働が特に重要である。患者の主治医との連携、在宅リハビリテーションでの理学療法士とのチームワーク、そして地域にある社会資源をどのように一人ひとりの患者に適応していくかを実践知として学ぶ。

## 博士論文

看護の実践・教育の向上に資するために高い学識・行動力・倫理観を持って健康ニーズに対して、また看護のシステムや環境改善への臨床志向型研究に取り組み、研究と実践の循環的發展を試み、看護学を実践科学として発展させる自立した研究者としての能力、および教育能力が持てるようになる研究のプロセスを学び、かつ対外的に公表し、社会的貢献に寄与できる研究成果が得られるようにする。

## <選択科目>

### がん看護学特論(CNSのMsコースレベル)

最新のがん看護に関わる高度な知識と技術の現状と課題および、がん看護に適用される概念・理論について理解を深めると共に、実践への活用について探究する。またがん診断期、治療期、再発期、終末期というがん罹患後のあらゆる経過における患者とその家族の体験を理解し、高度な倫理観及び看護判断に基づいた看護援助技術を探究する。さらに、がんの予防や健康教育とともに、がん診断・治療後の生活調整・トータルペイン緩和に対する援助方法を探究する。

### 在宅看護特論(CNSのMsコースレベル)

在宅看護に関連する保健医療福祉の諸制度とケアシステムを理解し、ケアマネジメントの一連の過程に関する概念・理論を理解し、効果的な支援とその環境について探求する。また在宅療養者と家族の健康と生活のアセスメントに関する理論とその方法および在宅ケア事業所の管理、質改善に関する方法について学ぶ。

## コンサルテーション論

看護および保健・医療・福祉の場でケアを提供する専門職者が直面するさまざまな問題を解決するための具体的援助方法としてのコンサルテーションの理論と方法を学ぶ。実践で起こるさまざまな現象についてアセスメントし、問題を分析する。看護にとってのコンサルテーションの意義を理解し、理論的根拠をもって実践することができる能力を修得する。

## 看護倫理学

倫理学に関する原則的概念や理論を理解し、専門看護師としての倫理的責任と役割を探求する。実践での倫理的な問題・葛藤を認識し、解決・調整するための方法論を学修する。

## フィジカルアセスメント

健康関連のフィジカルアセスメントに関する知識・技術を習得することにより、対象者を包括的に評価し、看護の実践に活用できる能力を修得する。

DNP教育方略マトリックス 学習分野と到達目標

◎…必須経験項目 A…自立して実施 B…監督の下での実施

C…想起・解釈または計画までの見学

分野	1年次		2年次							3年次								終了時到達目標				
	講義・演習と 診療科関連 (学習單元)	講義	演習	臨床病院							地域医療											
				訪問看護ステーション	腎・内分泌・神経系・腫瘍科	内科(呼吸器・循環器・消化器)	外科系(外科・整形外科・脳外科)	小児科	がん化学療法外来(点滴セ)	救急救命センター	総合診療	在宅ケア				施設サービス			地域密着型サービス	ケア付住宅	保健所	
												訪問看護ステーション	在宅支援診療所	一般診療所	地域包括支援センター	介護事業所	デイケア		シヨートステイ	介護老人福祉施設		介護老人保健施設
I	NPとしての基本的姿勢・態度																					
	患者・家族-医療者関係		◎	◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	A	
	チーム医療、福祉連携		◎	◎		◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎		◎	A	
	ケアの質評価、安全管理			◎		◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎		◎				A	
	医療の費用対効果と社会資源活用		◎						◎	◎											A	
	問題対応能力		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	A	
	症例提示			◎		◎	◎		◎	◎	◎			◎	◎						A	
II-1	頻度の高い症状：必須項目（レポート提出）																					
	全身倦怠感		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎				◎	A	
	不眠		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎				◎	A	
	浮腫		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	リンパ節腫脹		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	発疹		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	黄疸		◎						◎	◎											A	
	発熱		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	頭痛		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	めまい		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	けいれん発作		◎						◎												A	
	視力障害/狭窄		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	結膜の充血		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	胸痛		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	動悸		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	呼吸困難		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	咳・痰		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	嘔気・嘔吐		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	腹痛		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	便通異常		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	腰痛		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	四肢のしびれ		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	血尿		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	排尿障害		◎			◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	尿量異常		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
	不安・抑うつ		◎						◎	◎	◎	◎			◎	◎					A	
II-2	経験が求められる疾患・病態：必須項目 A疾患（症例レポート提出）																					
	白血病		◎						◎												B	
	血液凝固障害		◎						◎												B	
	脳・脊髄疾患		◎					◎	◎						◎	◎					B	
	心不全		◎					◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎					B	
	高血圧症		◎					◎	◎	◎	◎				◎	◎					A	

	喘息		◎			◎	◎													A
	肺がん		◎			◎	◎													B
	呼吸器感染症		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							B
	食道・胃・十二指腸疾患		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							B
	腎不全		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							B
	糖代謝異常		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							A
	認知症		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							A
	気分障害		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							B
	統合失調症		◎			◎	◎	◎	◎			◎	◎							B
	骨折				◎		◎													B
	外科症例 (手術を含む)				◎		◎	◎	◎			◎	◎							D
II-3 緊急を要する症状・病態判断																				
	心肺停止		◎			◎	◎	◎												A
	ショック		◎			◎	◎	◎												A
	意識障害		◎			◎	◎	◎												B
	脳血管障害		◎			◎	◎	◎												B
	急性呼吸不全		◎			◎	◎	◎												B
	急性心不全		◎			◎	◎	◎												B
	急性冠症候群		◎			◎	◎													B
	急性腹症		◎			◎	◎													B
	急性消化管出血		◎			◎	◎													B
	急性腎不全		◎			◎	◎													B
	流早産・満期産					◎	◎													B
	急性感染症		◎			◎	◎	◎												B
	外傷				◎		◎	◎												B
	急性中毒					◎	◎													B
	誤飲・誤嚥				◎		◎	◎	◎											A
	熱傷				◎		◎	◎												A
	精神科領域救急					◎	◎	◎												B
II-4 医療現場の経験																				
	一般医療		◎		◎	◎		◎	◎	◎			◎	◎	◎					A
	救急医療					◎		◎	◎	◎			◎	◎	◎					A
	予防医療							◎	◎	◎			◎						◎	A
	地域医療							◎	◎	◎										A
	周産・小児。成 育医療				◎			◎												A
	精神保健医療							◎												A
	緩和ケア・終末 期医療							◎	◎	◎			◎		◎					A
	地域保健																	◎	◎	A

## DNP教育方略マトリックス 学習分野と到達目標

◎…必須経験項目 A…自立して実施 B…監督の下での実施  
C…想起・解釈または計画までの見学

	分野	1年次		2年次						3年次						終了時到達目標								
		大学院		臨床病院						地域医療														
		講義	演習	訪問看護ステーション	内科(呼吸器・循環器・消化器・腎・内分泌・神経系・腫瘍科)	外科系(外科・整形外科・脳外科)	小児科	がん化学療法外来(点滴セ)	救急救命センター	総合診療	在宅ケア	施設サービス	地域密着型サービス	ケア付住宅	保健所									
	講義・演習と診療科関連(学習单元)									訪問看護ステーション	在宅支援診療所	一般診療所	地域包括支援センター	介護事業所	デイケア	シヨートステイ	介護老人保健施設	介護老人福祉施設	介護療養型施設	地域密着型サービス	グループホーム(認知症対応型通所介護・小規模多機能居宅介護)	ケア付住宅	保健所	
	期間(wk)																							
	学習单元																							
<b>III-1</b>	<b>NPの行う基本的な身体診察・観察・フィジカルアセスメント</b>																							
	医療面接			◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎			◎		◎	A
	全身観察			◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎			◎		◎	A
	頭頸部			◎		◎	◎	◎	◎								◎	◎			◎			A
	胸部(含乳房)			◎		◎	◎	◎	◎								◎	◎			◎		◎	A
	腹部(含直腸)			◎		◎	◎	◎	◎								◎	◎			◎			A
	泌尿・生殖器(含産婦人科)			◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎			◎			A
	骨・関節・筋肉			◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎			◎		◎	A
	神経			◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎			◎		◎	A
	小児			◎		◎	◎	◎	◎	◎							◎	◎			◎		◎	A
	精神面の診察									◎	◎						◎	◎			◎	◎	◎	A
<b>III-2</b>	<b>NPの行う基本的な臨床検査</b>																							
	一般尿検査			◎		◎	◎	◎	◎								◎	◎			◎		◎	A
	便検査			◎		◎	◎	◎	◎								◎	◎					◎	A
	血算・白血球分画			◎				◎	◎								◎	◎					◎	A
	A血液型判定・交差適合試験			◎					◎								◎	◎					◎	A
	血液生化学検査			◎					◎								◎	◎					◎	A
	血液免疫血清学			◎					◎								◎	◎					◎	A
	内視鏡検査			◎					◎								◎	◎						B
	エックス線CT			◎					◎								◎	◎					◎	B
	MR I検査			◎					◎								◎	◎						B
	核医学検査			◎					◎								◎	◎						B
	神経生理学的検査			◎					◎								◎	◎					◎	B

# DNP教育方略マトリックス 学習分野と到達目標

◎…必須経験項目 A…自立して実施 B…監督の下での実施  
C…想起・解釈または計画までの見学

	分野	1年次		2年次						3年次								終了時到達目標					
		大学院		臨床病院						地域医療													
		講義	演習	訪問看護ステーション	腎・内分泌・神経系・腫瘍科	内科(呼吸器・循環器・消化器・)	外科系(外科・整形外科・脳外科)	小児科	がん化学療法外来(点滴セ)	救急救命センター	総合診療	在宅ケア				施設サービス				地域密着型サービス	ケア付住宅	保健所	
												訪問看護ステーション	在宅支援診療所	一般診療所	地域包括支援センター	介護事業所	デイケア		ショートステイ				介護老人福祉施設
学習単元	期間(wk)																						
IV-1	NPの行う検査	実施の決定、実施、所見の記述 判断																					
	重症度評価のための採血の決定実施			◎		◎	◎			◎	◎	◎			◎	◎				A			
	動脈line から			◎		◎	◎			◎	◎	◎			◎	◎				A			
	動脈穿刺採血									◎	◎	◎			◎	◎				A			
	動脈ライン抜去			◎		◎	◎													A			
	血液ガス実施			◎																A			
	Triage 検体検査																			B			
	治療効果判定のための検査			◎						◎	◎	◎			◎	◎				C			
	術前検査実施			◎		◎	◎								◎	◎				A			
	単X線画像判断			◎		◎	◎								◎	◎				A			
	CT/MR 画像判断																			C			
	消化管透視決定																			B			
	造影剤注射実施																			B			
	IVR 造影剤注射																			B			
	IVR 時動脈穿刺																			B			
	経膈膀胱造影実施																			B			
	腹部超音波実施			◎		◎	◎				◎	◎			◎	◎				A			
	心臓超音波実施			◎							◎	◎			◎	◎				B			
	頸動脈超音波																			B			
	表在超音波実施																			B			
	下肢血管超音波																			B			
	下肢動脈 Doppler																			C			
	心電図検査実施			◎		◎	◎			◎	◎	◎			◎	◎				A			
	感染症検査実施			◎						◎	◎	◎			◎	◎				B			
	薬剤感受性検査			◎						◎	◎	◎			◎	◎				B			
	真菌検査判断																			B			
	微生物検査判断			◎						◎	◎	◎			◎	◎				B			
	微生物スワブ実施			◎		◎	◎								◎	◎				A			
	スピロメ実施			◎							◎	◎			◎	◎				A			
	直腸内圧測定実施																			D			
	膀胱内圧測定実施																			C			
	PWV 検査判定																			D			
	脈波検査実施																			D			
	足病変検査実施			◎						◎	◎	◎			◎	◎				B			
	血流評価検査実施			◎						◎	◎	◎			◎	◎				B			
	骨密度検査実施			◎						◎	◎	◎			◎	◎				A			
	嚥下造影決定																			B			
	嚥下内視鏡実施																			D			
	腰椎穿刺																			B			
	骨髄穿刺					◎	◎													B			
	眼底検査実施			◎						◎	◎				◎	◎				A			

IV-2	NPの行う呼吸器関係の処置																		
	酸素吸入実施			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎		◎			◎	A
	気管カニュー交換			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎											A
	気管切開																		C
	経皮気管穿刺針																		C
	気管チューブ深さ調整			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎											A
	気管チューブ挿入			◎															A
	気管チューブ抜去			◎		◎ ◎													A
	Respirator 設定			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎											A
	Respirator 鎮静管理			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎											B
	Respirator Weaning			◎				◎ ◎ ◎											C
	HFO 対応：小児のrespirator 選択																		C
	NPPV 開始、中止、モード設定			◎															C
IV-3	NPの行う処置・創傷処置																		
	創部洗浄・消毒			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎					◎	A
	褥瘡デブリドマン			◎				◎ ◎ ◎					◎						A
	浣腸実施決定			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎					◎	A
	巻爪処置																	◎	C
	胼胝鶏眼処置			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎						A
	皮下膿瘍切開			◎				◎ ◎ ◎					◎		◎			◎	A
	創傷閉鎖療法			◎				◎ ◎ ◎					◎		◎				A
	表層の縫合			◎				◎ ◎ ◎					◎		◎			◎	A
	医療用ホッチキス			◎															A
	体表面創抜糸鉤			◎		◎ ◎													A
	動脈ライン確保			◎															B
	末梢静脈カテ挿入			◎				◎ ◎ ◎					◎		◎				A
	中心静脈カテ挿入																		C
	中心静脈カテ抜去			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎		◎				A
	膝管胆管カテ管理																		C
	膝管胆管カテ抜去																		C
	腹腔穿刺																		B
	腹腔ドレーン抜去			◎				◎ ◎ ◎											B
	胸腔穿刺												◎		◎				B
	胸腔ドレーン抜去			◎				◎ ◎ ◎					◎		◎				B
	胸腔低圧持続吸引管理			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎		◎				A
	PTCD チューブ留置・洗浄																		C
	創部ドレーン抜去			◎				◎ ◎ ◎											B
	一時的ペースメーカー操作管理																		C
	同上カテ抜去																		C
	PCPS 補助循環																		D
	大動脈バルーンパンピング抜去																		C
	小児 CTMRI 検査時鎮静																		C
	小児臍動脈輸液																		C
	輸液路確保のための骨髄穿刺																		C
	幹細胞移植接続適教調整																		D
	関節穿刺																		C
IV-4	NPの行う日常生活支援																		
	飲水の開始中止			◎		◎ ◎		◎ ◎ ◎					◎		◎			◎	A

	食事の開始中止			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	治療食内容決定			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	腸瘻管理tube入替			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	胃瘻腸瘻抜去			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	経管栄養tube入替			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	胃瘻チューブ交換			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	膀胱瘻カテー交換			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	安静度活動範囲決定			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
IV-5	NPが行う麻酔 手術																		
	全身麻酔の導入								◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			C
	麻酔中呼吸循環管理								◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			C
	麻酔の覚醒					◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	局所麻酔 腰椎・硬膜外								◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			B
	麻酔の補足説明					◎ ◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	硬膜外チューブ 抜去			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	皮膚表面麻酔			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
IV-6	NPが行う緊急時対応																		
	高血糖時インスリン 注射量判断			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	低血糖時ブドウ糖 注射			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	脱水判断補正			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	末梢静脈ルート 確保 輸液			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	心肺停止気道確保			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	心肺停止除細動			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	電氣的除細動			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
	血液透析的管理			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎		◎			A
IV-7	NPの行う予防医療																		
	予防接種実施			◎		◎ ◎			◎ ◎					◎ ◎					A
	検診診査実施			◎															A
	癌検診			◎															A
IV-8	NPが行う包括的指示に基づく薬剤の選択・使用																		
	化学療法副作用 緩和の薬剤選択			◎					◎ ◎ ◎					◎					A
	抗癌薬漏出時処置			◎															A
	放射線治療副作 用時外用薬使用			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎					A
	副作用時薬剤使用			◎					◎ ◎ ◎					◎					A
	継続薬剤使用			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎					A
	創傷皮膚保護薬 使用			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎					A
	薬物血中濃度オ ーダ			◎		◎ ◎			◎ ◎										A
	創傷被覆材選択			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎										A
	ネブライザ開始			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎					A
	創傷外用薬選択			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎					A
	感染徴候時薬物			◎					◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎					A
	下剤			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	胃薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	整腸薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	止痢薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	鎮痛薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	解熱薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	去痰薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A
	抗壅鬱薬			◎		◎ ◎			◎ ◎ ◎					◎ ◎ ◎		◎ ◎ ◎			A



	インフルエンザ薬			◎	◎	◎		◎	◎	◎			◎	◎	◎							A
	外用薬選択使用			◎	◎	◎		◎	◎	◎			◎	◎	◎							A
	排尿障害治療薬			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
	糖尿病治療継続 薬状況判断			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
	硬膜外鎮痛薬			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
	自己血糖測定決定			◎	◎	◎		◎	◎	◎				◎	◎							A
	抗菌薬開始決定			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
	基本的輸液			◎				◎	◎	◎				◎	◎	◎						A
	WHO 鎮痛薬使用 オピオイド			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
	WHO 鎮痛薬使用 非オピオイド			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
	癌転移苦痛対処			◎				◎	◎	◎				◎	◎							A
IV-9	NPが行うその他の業務																					
	訪問看護必要性			◎	◎	◎		◎	◎	◎											◎	A
	日々経過補足説明			◎	◎	◎		◎	◎	◎											◎	A
	リハビリ判断			◎	◎	◎		◎	◎	◎												A
	在宅終末期ケア 患者死亡確認			◎	◎	◎		◎	◎	◎												A
	医療サマリー作成			◎	◎	◎		◎	◎	◎												A
	患者家族教育			◎	◎	◎		◎	◎	◎												A
	医療連携			◎	◎	◎		◎	◎	◎												A

第1段階 NP 研究、医師の NP 教育到達目標から抽出した実習項目

		プライマリ・ケア 学会(n=161)	がん治療学会 (n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q1_1	全身倦怠感	116(72%)	60(87%)	0.015
Q1_2	不眠	133(83%)	57(83%)	0.999
Q1_3	浮腫	125(78%)	64(93%)	0.006
Q1_4	リンパ節腫脹	103(64%)	56(81%)	0.010
Q1_5	発疹	127(79%)	58(84%)	0.365
Q1_6	黄疸	120(75%)	60(87%)	0.036
Q1_7	発熱	144(89%)	62(90%)	0.925
Q1_8	頭痛	138(86%)	59(86%)	0.967
Q1_9	めまい	119(74%)	53(77%)	0.643
Q1_10	けいれん発作	123(76%)	54(78%)	0.758
Q1_11	視力障害、視野狭窄	95(59%)	49(71%)	0.085
Q1_12	結膜の充血	94(58%)	45(65%)	0.332
Q1_13	胸痛	137(85%)	58(84%)	0.841
Q1_14	動悸	129(80%)	57(83%)	0.661
Q1_15	呼吸困難	140(87%)	62(90%)	0.538
Q1_16	咳・痰	125(78%)	61(88%)	0.057
Q1_17	嘔気・嘔吐	134(83%)	64(93%)	0.056
Q1_18	腹痛	135(84%)	64(93%)	0.070
Q1_19	便通異常(下痢、便秘)	136(85%)	65(94%)	0.042
Q1_20	腰痛	113(70%)	55(80%)	0.136
Q1_21	四肢のしびれ	105(65%)	51(74%)	0.196
Q1_22	血尿	113(70%)	53(77%)	0.304
Q1_23	排尿障害(尿失禁、排尿困難)	120(75%)	58(84%)	0.114
Q1_24	尿量異常	104(65%)	54(78%)	0.041
Q1_25	不安・抑うつ	115(71%)	59(86%)	0.023
Q2_1	心肺停止	147(91%)	64(93%)	0.714
Q2_2	ショック	144(89%)	66(96%)	0.126
Q2_3	意識障害	140(87%)	64(93%)	0.203
Q2_4	脳血管障害	112(70%)	46(67%)	0.664
Q2_5	急性呼吸不全	132(82%)	55(80%)	0.685
Q2_6	急性心不全	124(77%)	52(75%)	0.786
Q2_7	急性冠症候群	108(67%)	42(61%)	0.365
Q2_8	急性腹症	128(80%)	60(87%)	0.180
Q2_9	急性消化管出血	119(74%)	55(80%)	0.348
Q2_10	急性腎不全	106(66%)	44(64%)	0.763
Q2_11	流・早産および満期産	98(61%)	37(54%)	0.306
Q2_12	急性感染症	111(69%)	48(70%)	0.926
Q2_13	外傷	118(73%)	48(70%)	0.563
Q2_14	急性中毒	111(69%)	47(68%)	0.901
Q2_15	誤飲、誤嚥	129(80%)	58(84%)	0.483
Q2_16	熱傷	113(70%)	46(67%)	0.596
Q2_17	精神科領域の救急	89(55%)	36(52%)	0.665

一般的な疾患

		プライマリ・ ケア学会 (n=161)	がん治療学会 (n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q3_1_1	貧血(鉄欠乏貧血、二次性貧血)	123(76%)	44(64%)	0.049
Q3_1_2	白血病	60(37%)	21(30%)	0.320
Q3_1_3	悪性リンパ腫	50(31%)	17(25%)	0.326
Q3_1_4	出血傾向・紫斑病(播種性血管内凝固症候群: DIC)	116(72%)	48(70%)	0.703
Q3_2_1	脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、クモ膜下 出血)	124(77%)	51(74%)	0.613
Q3_2_2	脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・下血腫)	103(64%)	39(57%)	0.287
Q3_2_3	脳炎、髄膜炎	98(61%)	31(45%)	0.026
Q3_3_1	湿疹・皮膚炎群	100(62%)	32(46%)	0.027
Q3_3_2	蕁麻疹	127(79%)	43(62%)	0.009
Q3_3_3	薬疹	114(71%)	51(74%)	0.623
Q3_3_4	皮膚感染症	84(52%)	23(33%)	0.009
Q3_4_1	骨折	118(73%)	52(75%)	0.743
Q3_4_2	関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、韧带損傷	97(60%)	39(57%)	0.598
Q3_4_3	骨粗鬆症	68(42%)	19(28%)	0.035
Q3_4_4	脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア)	64(40%)	16(23%)	0.016
Q3_5_1	心不全	130(81%)	48(70%)	0.063
Q3_5_2	狭心症、心筋梗塞	124(77%)	47(68%)	0.157
Q3_5_3	不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)	127(79%)	52(75%)	0.556
Q3_5_4	動脈疾患(動脈硬化、大動脈瘤)	75(47%)	15(22%)	<0.001
Q3_5_5	静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈 瘤、リンパ浮腫)	79(49%)	29(42%)	0.327
Q3_5_6	高血圧症(本態性、二次性高血圧症)	106(66%)	33(48%)	0.010
Q3_6_1	呼吸不全	133(83%)	53(77%)	0.306
Q3_6_2	呼吸器感染症(急性気道炎、気管支炎、肺炎)	113(70%)	40(58%)	0.072
Q3_6_3	閉塞性・拘束性肺疾患(気管支喘息、気管支拡張 症)	103(64%)	34(49%)	0.037
Q3_7_1	食道・胃・十二指腸疾患(食道静脈瘤、胃癌、消 化性潰瘍、胃・十二指腸炎)	115(71%)	40(58%)	0.046
Q3_7_2	小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・ 痔)	112(70%)	43(62%)	0.283
Q3_7_3	胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)	101(63%)	36(52%)	0.135
Q3_7_4	肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬 変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)	96(60%)	32(46%)	0.064
Q3_7_5	横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア )	78(48%)	30(44%)	0.489
Q3_8_1	腎不全(急性・慢性腎不全・透析)	123(76%)	50(73%)	0.527
Q3_8_2	原発性糸球体疾患(急性・慢性糸球体腎炎症候群、 ネフローゼ症候群)	59(37%)	15(22%)	0.027
Q3_8_3	泌尿器科の腎・尿路疾患(尿路結石、尿路感染症)	99(62%)	33(48%)	0.055
Q3_9_1	妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産 科出血、乳腺炎、産褥)	111(69%)	38(55%)	0.044
Q3_9_2	男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫 瘍)	58(36%)	20(29%)	0.301

Q3_10_1	糖代謝異常（糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖）	136(85%)	46(67%)	0.002
Q3_10_2	高脂血症	84(52%)	25(36%)	0.026
Q3_11_1	屈折異常（近視、遠視、乱視）	60	19	0.154
Q3_11_2	角結膜炎	81	26	0.078
Q3_11_3	白内障	62	22	0.339
Q3_11_4	緑内障	73	29	0.643
Q3_12_1	中耳炎	90	24	0.003
Q3_12_2	アレルギー性鼻炎	87	28	0.061
Q3_12_3	扁桃の急性・慢性炎症性疾患	94	24	0.001
Q3_13_1	痴呆（血管性痴呆を含む）	113	33	0.001
Q3_13_2	うつ病	104	41	0.456
Q3_13_3	統合失調症	65	26	0.702
Q3_13_4	身体表現性障害、ストレス関連障害	72	27	0.433
Q3_14_1	ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘症、ヘルペス、流行性耳下腺炎）	118	41	0.037
Q3_14_2	細菌感染症（ブドウ球菌、MRSA、A群連鎖球菌、クラミジア）	111	38	0.044
Q3_14_3	結核	93	28	0.017
Q3_15_1	慢性関節リウマチ	79	25	0.073
Q3_15_2	アレルギー疾患	84	28	0.107
Q3_16_1	小児けいれん性疾患	111	38	0.044
Q3_16_2	小児ウイルス感染症（麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ）	107	33	0.008
Q3_16_3	小児細菌感染症	87	28	0.061
Q3_16_4	小児喘息	108	32	0.003
Q3_17_1	高齢者の栄養摂取障害	118	43	0.096
Q3_17_2	老年症候群（誤嚥、転倒、失禁、褥瘡）	123	46	0.126

	医師の指示が必要	プライマリ・ケア学会(n=161)	がん治療学会(n=69)	X <sup>2</sup> (p値)
Q4_1_1a	動脈血血液ガス検査の適応判断、実施、結果判断	78	26	0.273
Q4_1_2a	直接動脈穿刺による採血	76	25	0.124
Q4_1_3a	動脈ラインからの採血	133	60	0.411
Q4_1_4a	動脈ラインの抜去・圧迫止血	105	48	0.522
Q4_1_5a	緊急度判断のための検体検査の適応判断、実施、結果判断	76	31	0.751
Q4_1_6a	治療効果判定のための検体検査の適応判断、実施、結果判断	39	17	0.947
Q4_1_7a	手術前検査の適応判断、実施、結果判断	55	21	0.582
Q4_1_8a	単純エックス線撮影の適応判断、画像判断	61	29	0.555
Q4_1_9a	CT検査の適応判断、画像判断	25	9	0.627
Q4_1_10a	腹部超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	56	29	0.297
Q4_1_11a	心臓超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	45	20	0.873
Q4_1_12a	頸動脈超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	51	19	0.532
Q4_1_13a	表在超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	55	24	0.928
Q4_1_14a	下肢血管超音波の適応判断、実施及び所見の記述、判断	55	23	0.903
Q4_1_15a	術後下肢動脈ドップラー検査の適応判断、実施、結果判断	62	20	0.167
Q4_1_16a	12誘導心電図検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	107	52	0.180
Q4_1_17a	感染症検査（インフルエンザ・ノロウイルス等）の適応判断、実施、結果判断	97	40	0.747
Q4_1_18a	薬剤感受性検査適応判断	78	35	0.752
Q4_1_19a	微生物学検査適応判断	77	39	0.227
Q4_1_20a	微生物学検査の実施：スワブ法	103	46	0.695
Q4_1_21a	スパイロメトリーの適応判断、実施及び所見の記述、判断	75	28	0.401
Q4_1_22a	動脈脈波伝播速度検査（PWV）の適応判断	64	18	0.047
Q4_1_23a	脈波（ABI/PWV）検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	65	17	0.022
Q4_1_24a	足病変の検査（ABI/PWV）の適応判断、実施及び所見の記述、判断	66	2	0.130
Q4_1_25a	血流評価検査（SPP、ABI）の適応判断、実施及び所見の記述、判断	57	20	0.345
Q4_1_26a	骨密度検査（超音波検査）の適応判断、実施及び所見の記述、判断	83	33	0.604
Q4_1_27a	眼底検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	31	20	0.104
Q4_1_28a	神経診察の実施及び所見の記述、判断	53	27	0.365

	医師の指示が必要	プライマ リ・ケア学 会(n=161)	がん治療 学会 (n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q4_2_1a	酸素吸入の開始、中止、投与量の調整の判断	102	54	0.027
Q4_2_2a	気管カニューレの選択・交換	100	47	0.385
Q4_2_3a	経皮的気管穿刺針（トラヘルパー等）の挿入	37	20	0.334
Q4_2_4a	経口・経鼻挿管の実施	60	28	0.636
Q4_2_5a	挿管チューブの位置調節（深さの調整）	112	48	0.999
Q4_2_6a	経口・経鼻挿管チューブの抜管	88	44	0.200
Q4_2_7a	人工呼吸器装着中の患者のウィニングスケジュール作成と実施	59	19	0.181
Q4_2_8a	人工呼吸器モードの設定・変更の判断・実施	68	22	0.140
Q4_2_9a	人工呼吸管理下の鎮静管理	65	30	0.661
Q4_2_10a	小児の人工呼吸器の選択：HFO 対応か否か	25	9	0.627
Q4_2_11a	NPPV 開始、中止、モード設定	41	10	0.066
Q4_3_1a	創部洗浄・消毒	134	61	0.317
Q4_3_2a	褥瘡の壊死組織のデブリードマン	78	35	0.752
Q4_3_3a	洗腸の実施の決定	123	56	0.428
Q4_3_4a	巻爪処置（ニッパー、ワイヤーを用いた処置）	102	43	0.882
Q4_3_5a	臍脈・鵝眼処置（コーンカッター等を用いた処置）	101	45	0.720
Q4_3_6a	皮下膿瘍の切開・排膿（皮下組織まで）	60	30	0.376
Q4_3_7a	創傷の陰圧閉鎖療法の実施	61	26	0.976
Q4_3_8a	表創（非感染創）の縫合（皮下組織まで）	69	29	0.907
Q4_3_9a	表創（非感染創）の縫合（皮下組織～筋層まで）	37	14	0.653
Q4_3_10a	バイポーラメスによる止血（褥瘡部）	55	31	0.122
Q4_3_11a	医療用ホッチキス（スキンステプラー）の使用	65	37	0.064
Q4_3_12a	体表面創の抜糸・抜鉤	99	50	0.110
Q4_3_13a	動脈ライン確保	54	21	0.645
Q4_3_14a	末梢静脈挿入式静脈カテーテル（PICC）※挿入	56	16	0.082
Q4_3_15a	中心静脈カテーテル挿入	8	5	0.630
Q4_3_16a	中心静脈カテーテル抜去	90	46	0.128
Q4_3_17a	膝管・胆管チューブの管理	73	30	0.795
Q4_3_18a	膝管・胆管チューブの管理、チューブの抜去	50	24	0.579
Q4_3_19a	腹腔穿刺（一時的なカテーテル留置を含む）	19	10	0.573
Q4_3_20a	腹腔ドレーン抜去	77	32	0.840
Q4_3_21a	胸腔ドレーン低圧持続吸引中の吸引圧の設定・変更	69	24	0.253
Q4_3_22a	PTCD チューブ等の留置チューブの洗浄	80	34	0.954
Q4_3_23a	創部ドレーン抜去	86	33	0.437
Q4_3_24a	一時的ペースメーカーの管理	56	22	0.670
Q4_3_25a	PCPS 等補助循環の管理	36	18	0.541
Q4_3_26a	小児の CT・MRI 検査時の鎮静	34	17	0.556
Q4_3_27a	小児の臍カテ：臍動脈の輸液路確保	33	13	0.774
Q4_3_28a	膝関節穿刺	22	11	0.652
Q4_4_1a	飲水の開始・中止の決定	94	34	0.203
Q4_4_2a	食事の開始・中止の決定	91	32	0.157
Q4_4_3a	治療食（経腸栄養含む）内容の決定・変更	109	40	0.157
Q4_4_4a	腸ろうの管理、チューブの入れ替え	82	41	0.237

Q4_4_5a	胃ろう、腸ろうのチューブ抜去	97	50	0.077
Q4_4_6a	経管栄養用の胃管の挿入、入れ替え	103	44	0.976
Q4_4_7a	胃ろうチューブの交換	95	43	0.638
Q4_4_8a	膀胱ろうカテーテルの交換	105	48	0.522
Q4_4_9a	安静度・活動や清潔の範囲の決定	129	56	0.856
Q4_5_1a	全身麻酔の導入	9	9	0.054
Q4_5_2a	術中の麻酔・呼吸・循環管理（麻酔深度の調節、薬剤・酸素投与濃度、輸液量等の調整）	34	20	0.197
Q4_5_3a	麻酔の覚醒判断	41	21	0.436
Q4_5_4a	麻酔の補足説明：“麻酔医による患者とのリスク共有も含む説明”を補足する時間をかけた説明	85	37	0.908
Q4_5_5a	硬膜外チューブの抜去	85	43	0.183
Q4_5_6a	皮膚表面の麻酔（注射）	73	36	0.342
Q4_5_7a	手術執刀までの準備（体位、消毒）	114	50	0.799
Q4_5_8a	気管切開等の小手術助手（手術時の臓器や手術器械の把持及び保持）	79	38	0.404
Q4_5_9a	手術の補足説明：“術者による患者とのリスク共有も含む説明”を補足する時間をかけた説明	93	39	0.861
Q4_5_10a	術前サマリーの作成	95	50	0.053
Q4_5_11a	麻酔サマリーの作成	88	49	0.021
Q4_6_1a	高血糖時のインスリン投与量の判断、一時中止の決定	55	28	0.353
Q4_6_2a	低血糖時のブドウ糖投与	127	56	0.695
Q4_6_3a	脱水の判断と補正（点滴）	77	41	0.107
Q4_6_4a	末梢血管静脈ルートの確保と輸液剤の投与	124	55	0.653
Q4_6_5a	心肺停止患者への気道確保、マスク換気	129	50	0.200
Q4_6_6a	心肺停止患者への電氣的除細動実施	122	51	0.764
Q4_6_7a	除細動器による電氣的除細動の実施	108	49	0.557
Q4_6_8a	血液透析・CHDF の操作、管理	60	25	0.882

	医師の指示が必要	プライマ リ・ケア学 会(n=161)	がん治療 学会 (n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q4_7_1a	予防接種の実施判断と実施	98	41	0.837
Q4_7_2a	特定健診などの健康診査の実施	103	41	0.513
Q4_7_3a	子宮頸がん検診：細胞診のオーダー（一次スクリーニング）、検体採取	94	38	0.642
Q4_7_4a	前立腺がん検診：触診・PSA オーダー（一次スクリーニング）	89	37	0.817
Q4_7_5a	大腸がん検診：便潜血オーダー	119	54	0.484
Q4_7_6a	乳がん検診：視診・触診（一次スクリーニング）	95	44	0.499
Q4_8_1a	化学療法副作用出現時の症状緩和の薬剤選択、処置	75	39	0.167
Q4_8_2a	抗癌剤等の皮下漏出時のステロイド薬の選択、局所注射の実施	70	38	0.106
Q4_8_3a	放射線治療による副作用出現時の外用薬の選択	82	47	0.016
Q4_8_4a	副作用症状の確認による薬剤の中止、減量、変更の決定	43	26	0.147
Q4_8_5a	指示された期間内に薬がなくなった場合の継続薬剤（全般）の投薬指示	89	47	0.070
Q4_8_6a	創傷の皮膚保護剤（抗白癬薬、角質治療薬等の外用薬）の選択・使用の決定	94	47	0.165
Q4_8_7a	薬物血中濃度（TDM）のオーダー	103	42	0.655
Q4_8_8a	創傷被覆材（ドレッシング材）の選択、使用	119	55	0.348
Q4_8_9a	ネブライザーの開始、使用薬液の選択	113	55	0.136
Q4_8_10a	創傷治癒のための外用剤の選択	111	54	0.150
Q4_8_11a	感染徴候時の薬物（抗生剤等）の選択（全身投与、局所投与等）	48	25	0.338
Q4_8_12a	以下の薬剤の選択			
Q4_8_13a	下剤（坐薬も含む）	113	44	0.338
Q4_8_14a	胃薬	102	44	0.952
Q4_8_15a	整腸剤	107	44	0.694
Q4_8_16a	止痢剤	98	43	0.836
Q4_8_17a	鎮痛剤	92	40	0.907
Q4_8_18a	解熱剤	93	39	0.861
Q4_8_19a	去痰剤（小児）	77	30	0.545
Q4_8_20a	抗けいれん薬（小児）	42	16	0.643
Q4_8_21a	インフルエンザ薬	60	22	0.435
Q4_8_22a	外用薬の選択・使用	92	40	0.907
Q4_8_23a	排尿障害治療薬	57	28	0.456
Q4_8_24a	糖尿病治療継続薬の患者状態に応じた服薬可否の判断	55	27	0.471
Q4_8_25a	硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与（投与量の調整）	58	35	0.037
Q4_8_26a	自己血糖測定開始の決定	103	46	0.695
Q4_8_27a	抗菌剤開始時期の決定、変更時期の決定	79	31	0.565
Q4_8_28a	基本的な輸液：糖質輸液、電解質輸液、高カロリー輸液の実施	76	37	0.372
Q4_8_29a	痛みの強さや副作用症状に応じたオピオイドの投与量・用法調整、想定されたオピオイドローテーション	76	30	0.603

	の実施時期決定：WHO 方式がん疼痛治療法等			
Q4_8_30a	痛みの強さや副作用症状に応じた非オピオイド・鎮痛補助薬の選択と投与量・用法調整：WHO 方式がん疼痛治療法等	80	35	0.886
Q4_8_31a	がんの転移、浸潤に伴う苦痛症状のための薬剤の選択と評価	62	27	0.929
Q4_9_1a	四肢の創傷に伴う骨折、筋損傷、神経損傷に関する判断	51	25	0.501
Q4_9_2a	訪問看護の必要性の判断、依頼	136	52	0.101
Q4_9_3a	日々の経過の補足説明（インフォームドコンセント、時間をかけた説明）	135	50	0.046
Q4_9_4a	リハビリテーション（嚥下、呼吸、運動機能アップ等）の必要性の判断、依頼	126	52	0.630
Q4_9_5a	理学療法士・健康運動指導士への運動指導依頼	114	55	0.161
Q4_9_6a	整形外科領域の補助具の決定、注文	86	40	0.525
Q4_9_7a	他科への診療依頼	84	41	0.312
Q4_9_8a	他科・他院への診療情報提供書作成（紹介および返信）	78	38	0.357
Q4_9_9a	在宅で終末期ケアを実施してきた患者の死亡確認	81	37	0.645
Q4_9_10a	退院サマリーの作成	81	50	0.002
Q4_9_11a	患者・家族・医療従事者教育	130	55	0.856
Q4_9_12a	栄養士への食事指導依頼（既存の指示内容で）	127	59	0.242

	NP が独自に行う	プライマリ・ケア学会(n=161)	がん治療学会(n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q4_1_1b	動脈血血液ガス検査の適応判断、実施、結果判断	63	34	0.153
Q4_1_2b	直接動脈穿刺による採血	65	34	0.211
Q4_1_3b	動脈ラインからの採血	19	8	0.964
Q4_1_4b	動脈ラインの抜去・圧迫止血	43	17	0.743
Q4_1_5b	緊急度判断のための検体検査の適応判断、実施、結果判断	66	29	0.884
Q4_1_6b	治療効果判定のための検体検査の適応判断、実施、結果判断	96	42	0.860
Q4_1_7b	手術前検査の適応判断、実施、結果判断	81	38	0.508
Q4_1_8b	単純エックス線撮影の適応判断、画像判断	75	30	0.665
Q4_1_9b	CT 検査の適応判断、画像判断	105	47	0.670
Q4_1_10b	腹部超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	72	26	0.562
Q4_1_11b	心臓超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	78	36	0.604
Q4_1_12b	頸動脈超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	66	36	0.118
Q4_1_13b	表在超音波検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	60	30	0.376
Q4_1_14b	下肢血管超音波の適応判断、実施及び所見の記述、判断	60	31	0.276
Q4_1_15b	術後下肢動脈ドップラー検査の適応判断、実施、結果判断	55	34	0.031
Q4_1_16b	12 誘導心電図検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	36	15	0.917
Q4_1_17b	感染症検査（インフルエンザ・ノロウイルス等）の適応判断、実施、結果判断	42	17	0.818
Q4_1_18b	薬剤感受性検査適応判断	45	22	0.547
Q4_1_19b	微生物学検査適応判断	48	17	0.424
Q4_1_20b	微生物学検査の実施：スワブ法	28	10	0.588
Q4_1_21b	スパイロメトリーの適応判断、実施及び所見の記述、判断	53	28	0.265
Q4_1_22b	動脈脈波伝播速度検査（PWV）の適応判断	54	32	0.065
Q4_1_23b	脈波（ABI/PWV）検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	54	33	0.041
Q4_1_24b	足病変の検査（ABI/PWV）の適応判断、実施及び所見の記述、判断	53	28	0.265
Q4_1_25b	血流評価検査（SPP、ABI）の適応判断、実施及び所見の記述、判断	56	29	0.297
Q4_1_26b	骨密度検査（超音波検査）の適応判断、実施及び所見の記述、判断	43	20	0.723
Q4_1_27b	眼底検査の適応判断、実施及び所見の記述、判断	83	32	0.472
Q4_1_28b	神経診察の実施及び所見の記述、判断	73	27	0.384

	NP が独自に行う	プライマリ・ケア学会(n=161)	がん治療学会(n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q4_2_1b	酸素吸入の開始、中止、投与量の調整の判断	48(30%)	11(16%)	0.027
Q4_2_2b	気管カニューレの選択・交換	45	17	0.604
Q4_2_3b	経皮的気管穿刺針（トラヘルパー等）の挿入	89	36	0.665
Q4_2_4b	経口・経鼻挿管の実施	73	30	0.795
Q4_2_5b	挿管チューブの位置調節（深さの調整）	33	13	0.774
Q4_2_6b	経口・経鼻挿管チューブの抜管	52	17	0.245
Q4_2_7b	人工呼吸器装着中の患者のウイニングスケジュール作成と実施	77	34	0.840
Q4_2_8b	人工呼吸器モードの設定・変更の判断・実施	71	39	0.084
Q4_2_9b	人工呼吸管理下の鎮静管理	69	36	0.465
Q4_2_10b	小児の人工呼吸器の選択：HFO 対応か否か	92	39	0.931
Q4_2_11b	NPPV 開始、中止、モード設定	82	38	0.565
Q4_3_1b	創部洗浄・消毒	17	5	0.434
Q4_3_2b	褥瘡の壊死組織のデブリードマン	57	24	0.928
Q4_3_3b	浣腸の実施の決定	27	8	0.317
Q4_3_4b	巻爪処置（ニッパー、ワイヤーを用いた処置）	37	18	0.613
Q4_3_5b	膀胱・鶏眼処置（コーンカッター等を用いた処置）	37	12	0.343
Q4_3_6b	皮下膿瘍の切開・排膿（皮下組織まで）	71	24	0.188
Q4_3_7b	創傷の陰圧閉鎖療法の実施	64	23	0.358
Q4_3_8b	表創（非感染創）の縫合（皮下組織まで）	58	24	0.999
Q4_3_9b	表創（非感染創）の縫合（皮下組織～筋層まで）	80	36	0.730
Q4_3_10b	バイポーラメスによる止血（褥瘡部）	63	22	0.297
Q4_3_11b	医療用ホッチキス（スキンステープラー）の使用	58(36%)	14(20%)	0.018
Q4_3_12b	体表面創の抜糸・抜鉤	40	10	0.081
Q4_3_13b	動脈ライン確保	72	28	0.562
Q4_3_14b	末梢静脈挿入式静脈カテーテル（PICC）※挿入	65	31	0.521
Q4_3_15b	中心静脈カテーテル挿入	101	45	0.720
Q4_3_16b	中心静脈カテーテル抜去	47	13	0.101
Q4_3_17b	膝管・胆管チューブの管理	55	26	0.609
Q4_3_18b	膝管・胆管チューブの管理、チューブの抜去	69	29	0.907
Q4_3_19b	腹腔穿刺（一時的なカテーテル留置を含む）	94	40	0.953
Q4_3_20b	腹腔ドレーン抜去	48	25	0.338
Q4_3_21b	胸腔ドレーン低圧持続吸引中の吸引圧の設定・変更	57	28	0.456
Q4_3_22b	PTCD チューブ等の留置チューブの洗浄	41	15	0.546
Q4_3_23b	創部ドレーン抜去	46	22	0.614
Q4_3_24b	一時的ペースメーカーの管理	66	27	0.792
Q4_3_25b	PCPS 等補助循環の管理	75	27	0.297
Q4_3_26b	小児の CT・MRI 検査時の鎮静	84	27	0.070
Q4_3_27b	小児の臍カテ：臍動脈の輸液路確保	72	31	0.977
Q4_3_28b	膝関節穿刺	88	35	0.584
Q4_4_1b	飲水の開始・中止の決定	57	28	0.456
Q4_4_2b	食事の開始・中止の決定	59	31	0.238
Q4_4_3b	治療食（経腸栄養含む）内容の決定・変更	40	18	0.842
Q4_4_4b	腸ろうの管理、チューブの入れ替え	54	16	0.118

Q4_4_5b	胃ろう、腸ろうのチューブ抜去	45	13	0.145
Q4_4_6b	経管栄養用の胃管の挿入、入れ替え	40	15	0.613
Q4_4_7b	胃ろうチューブの交換	42	17	0.818
Q4_4_8b	膀胱ろうカテーテルの交換	34	15	0.916
Q4_4_9b	安静度・活動や清潔の範囲の決定	23	5	0.135
Q4_5_1b	全身麻酔の導入	84	36	0.999
Q4_5_2b	術中の麻酔・呼吸・循環管理（麻酔深度の調節、薬剤・酸素投与濃度、輸液量等の調整）	82	31	0.404
Q4_5_3b	麻酔の覚醒判断	73	32	0.885
Q4_5_4b	麻酔の補足説明：“麻酔医による患者とのリスク共有も含む説明”を補足する時間をかけた説明	49	14	0.114
Q4_5_5b	硬膜外チューブの抜去	45	16	0.453
Q4_5_6b	皮膚表面の麻酔（注射）	47	21	0.850
Q4_5_7b	手術執刀までの準備（体位、消毒）	24	9	0.712
Q4_5_8b	気管切開等の小手術助手（手術時の臓器や手術器械の把持及び保持）	54	19	0.370
Q4_5_9b	手術の補足説明：“術者による患者とのリスク共有も含む説明”を補足する時間をかけた説明	40	17	0.973
Q4_5_10b	術前サマリーの作成	43	11	0.078
Q4_5_11b	麻酔サマリーの作成	48(30%)	11(16%)	0.027
Q4_6_1b	高血糖時のインスリン投与量の判断、一時中止の決定	79	29	0.327
Q4_6_2b	低血糖時のブドウ糖投与	22	7	0.461
Q4_6_3b	脱水の判断と補正（点滴）	61	17	0.052
Q4_6_4b	末梢血管静脈ルートの確保と輸液剤の投与	24	7	0.332
Q4_6_5b	心肺停止患者への気道確保、マスク換気	19	13	0.157
Q4_6_6b	心肺停止患者への電氣的除細動実施	27	13	0.704
Q4_6_7b	除細動器による電氣的除細動の実施	36	14	0.727
Q4_6_8b	血液透析・CHDFの操作、管理	69	28	0.749

	NPが独自に行う	プライマリ・ケア学会(n=161)	がん治療学会(n=69)	X <sup>2</sup> (p値)
Q4_7_1b	予防接種の実施判断と実施	38	16	0.946
Q4_7_2b	特定健診などの健康診査の実施	33	12	0.586
Q4_7_3b	子宮頸がん検診：細胞診のオーダー（一次スクリーニング）、検体採取	37	18	0.613
Q4_7_4b	前立腺がん検診：触診・PSA オーダー（一次スクリーニング）	40	16	0.789
Q4_7_5b	大腸がん検診：便潜血オーダー	24	7	0.332
Q4_7_6b	乳がん検診：視診・触診（一次スクリーニング）	38	11	0.194
Q4_8_1b	化学療法副作用出現時の症状緩和の薬剤選択、処置	62	20	0.167
Q4_8_2b	抗癌剤等の皮下漏出時のステロイド薬の選択、局所注射の実施	67	22	0.165
Q4_8_3b	放射線治療による副作用出現時の外用薬の選択	52	15	0.106
Q4_8_4b	副作用症状の確認による薬剤の中止、減量、変更の決定	86	34	0.565
Q4_8_5b	指示された期間内に薬がなくなった場合の継続薬剤（全般）の投薬指示	48(30%)	12(17%)	0.049
Q4_8_6b	創傷の皮膚保護剤(抗白癬薬、角質治療薬等の外用薬)の選択・使用の決定	40(25%)	9(13%)	0.045
Q4_8_7b	薬物血中濃度（TDM）のオーダー	27	15	0.371
Q4_8_8b	創傷被覆材（ドレッシング材）の選択、使用	22	7	0.461
Q4_8_9b	ネブライザーの開始、使用薬液の選択	30	9	0.301
Q4_8_10b	創傷治癒のための外用剤の選択	28	7	0.161
Q4_8_11b	感染徴候時の薬物（抗生剤等）の選択（全身投与、局所投与等）	74	31	0.885
Q4_8_12b	以下の薬剤の選択			
Q4_8_13b	下剤（坐薬も含む）	28	13	0.792
Q4_8_14b	胃薬	32	13	0.856
Q4_8_15b	整腸剤	30	13	0.971
Q4_8_16b	止痢剤	37	14	0.653
Q4_8_17b	鎮痛剤	43	17	0.743
Q4_8_18b	解熱剤	45	18	0.772
Q4_8_19b	去痰剤（小児）	53	24	0.784
Q4_8_20b	抗けいれん薬（小児）	85	38	0.751
Q4_8_21b	インフルエンザ薬	67	33	0.384
Q4_8_22b	外用薬の選択・使用	40	14	0.455
Q4_8_23b	排尿障害治療薬	64	25	0.616
Q4_8_24b	糖尿病治療継続薬の患者状態に応じた服薬可否の判断	72	28	0.562
Q4_8_25b	硬膜外チューブからの鎮痛剤の投与（投与量の調整）	69	21	0.077
Q4_8_26b	自己血糖測定開始の決定	33	12	0.586
Q4_8_27b	抗菌剤開始時期の決定、変更時期の決定	79	31	0.565
Q4_8_28b	基本的な輸液：糖質輸液、電解質輸液、高カロリー輸液の実施	51	18	0.397
Q4_8_29b	痛みの強さや副作用症状に応じたオピオイドの投与量・用法調整、想定されたオピオイドローテーション	56	26	0.674

	の実施時期決定：WHO 方式がん疼痛治療法等			
Q4_8_30b	痛みの強さや副作用症状に応じた非オピオイド・鎮痛補助薬の選択と投与量・用法調整：WHO 方式がん疼痛治療法等	52	22	0.951
Q4_8_31b	がんの転移、浸潤に伴う苦痛症状のための薬剤の選択と評価	66	28	0.953
Q4_9_1b	四肢の創傷に伴う骨折、筋損傷、神経損傷に関する判断	71	26	0.366
Q4_9_2b	訪問看護の必要性の判断、依頼	11	6	0.621
Q4_9_3b	日々の経過の補足説明（インフォームドコンセント、時間をかけた説明）	13	7	0.610
Q4_9_4b	リハビリテーション（嚥下、呼吸、運動機能アップ等）の必要性の判断、依頼	21	6	0.348
Q4_9_5b	理学療法士・健康運動指導士への運動指導依頼	28(17%)	5(7%)	0.044
Q4_9_6b	整形外科領域の補助具の決定、注文	45	16	0.453
Q4_9_7b	他科への診療依頼	54	17	0.180
Q4_9_8b	他科・他院への診療情報提供書作成（紹介および返信）	58	18	0.142
Q4_9_9b	在宅で終末期ケアを実施してきた患者の死亡確認	48	17	0.424
Q4_9_10b	退院サマリーの作成	55(34%)	10(15%)	0.002
Q4_9_11b	患者・家族・医療従事者教育	17	6	0.666
Q4_9_12b	栄養士への食事指導依頼（既存の指示内容で）	17(11%)	2(3%)	0.053

	プライマリ・ケア学会 (n=161)	がん治療学会 (n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)	
Q5_1_1	悪性腫瘍とは何かを述べ、良性腫瘍との相違点を説明できる。	141(88%)	65(94%)	0.132
Q5_1_2	発がんの機序を段階に分けながら説明できる。	84(52%)	35(51%)	0.840
Q5_1_3	「がん遺伝子」と「がん抑制遺伝子」について説明できる。	70(44%)	36(52%)	0.225
Q5_1_4	がんの浸潤と転移の機序について説明できる。	102(63%)	42(61%)	0.721
Q5_1_5	がん細胞の形態学的特徴について説明できる。	80(50%)	32(46%)	0.645
Q5_1_6	がんの主な組織型について説明できる。	101(63%)	49(71%)	0.227
Q5_1_7	家族性（遺伝性）がんの種類と発生機序および遺伝子診断の概要について説明できる。	86(53%)	44(64%)	0.147
Q5_1_8	生活習慣による発がんについて説明できる。	119(74%)	62(90%)	0.007
Q5_1_9	発がんをきたす代表的なウイルス、細菌をあげ、関連するがんについて説明できる。	103(64%)	46(67%)	0.695
Q5_1_10	がんの予防を念頭においた生活習慣改善について説明できる。	127(79%)	64(93%)	0.010
Q5_1_11	がん検診の有用性について説明できる。	132(82%)	64(93%)	0.035
Q5_2_1	がんの診断に有用な腫瘍マーカーについて説明できる。	119(74%)	55(80%)	0.348
Q5_2_2	胸部、骨、乳腺のがんの主な単純エックス線所見を説明できる。	73(45%)	37(54%)	0.249
Q5_2_3	消化管、血管、膵胆管、尿路の主な造影エックス線所見を説明できる。	62(39%)	35(51%)	0.086
Q5_2_4	超音波検査の適応について述べ、頻度の高いがんの主な所見を説明できる。	75	41	0.074
Q5_2_5	CT、MRI、PET、RI 検査の適応・禁忌について述べ、頻度の高いがんの主な所見を説明できる。	84	45	0.068
Q5_2_6	消化管内視鏡検査の適応を述べ、頻度の高いがんの主な所見を説明できる。	76(47%)	44(64%)	0.021
Q5_2_7	気管鏡検査の適応を述べ、頻度の高いがんの主な所見を説明できる。	71(44%)	41(59%)	0.033
Q5_2_8	細胞診、組織診の適応を述べ、代表的な所見について説明できる。	74	38	0.205
Q5_2_9	染色体検査の適応を述べ、代表的な所見について説明できる。	57	27	0.591
Q5_2_10	がんに関する遺伝子診断の概要について説明できる。	68	26	0.520
Q5_2_11	がんの病期分類（TNM 分類）について説明できる。	105	51	0.196
Q5_3_1	がん治療における手術療法の適応と限界について説明できる。	105	45	0.999
Q5_3_2	がん手術におけるリンパ節郭清の意義と適応について説明できる。	81	36	0.796
Q5_3_3	内視鏡外科手術について説明できる。	91	38	0.839
Q5_3_4	がん治療における放射線療法の適応と限界について説明できる。	96	48	0.153
Q5_3_5	代表的な抗がん化学療法薬の適応と使用法および副作用について説明できる。	112	55	0.114
Q5_3_6	分子標的治療の概要について説明できる。	93(58%)	50(73%)	0.035

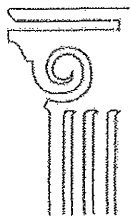


Q5_3_7	がん細胞のホルモン受容体について述べ、内分泌療法の対象疾患を挙げる。	85	45	0.082
Q5_3_8	造血幹細胞移植の概念・種類を説明し、代表的適応疾患を挙げる。	77	34	0.840
Q5_3_9	内視鏡的がん治療の種類と代表的適応疾患を挙げる。	86	40	0.525
Q5_3_10	がん治療における Interventional Radiology (IVR) の概念とその適応について説明できる。	86	40	0.525
Q5_3_11	がん治療における「集学的治療」の概念を説明する。	110(68%)	60(87%)	0.003
Q5_4_1	抗悪性腫瘍薬の使用に伴う骨髄抑制（白血球減少・血小板減少・貧血）の機序と対処法の概要を説明できる。	129(80%)	65(94%)	0.007
Q5_4_2	がん薬物療法に伴う感染症とその治療の概要について説明できる。	122	59	0.099
Q5_4_3	がん薬物療法に伴う消化器障害とその治療の概要について説明できる。	126	61	0.071
Q5_4_4	がん薬物療法に伴う口内炎・粘膜炎の予防とその治療の概要について説明できる。	129	66	0.003
Q5_4_5	皮膚障害を来しやすい代表的な抗悪性腫瘍薬を挙げる。	122(76%)	62(91%)	0.014
Q5_4_6	脱毛を来しやすい抗悪性腫瘍薬を挙げる。	122(76%)	63(91%)	0.007
Q5_4_7	末梢神経障害を来しやすい抗悪性腫瘍薬を挙げる。	122(76%)	63(91%)	0.007
Q5_4_8	心臓・肝臓・腎臓・肺などの臓器障害を来す悪性腫瘍薬を挙げる。	122(76%)	63(91%)	0.029
Q5_4_9	治療継続・中止に関するがん薬物療法の効果と毒性の評価について説明できる。	110(68%)	57(83%)	0.026
Q5_5_1	がん起因する緊急処置を要する病態を挙げて対処法の概要について説明できる。	119(74%)	62(90%)	0.007
Q5_5_2	上大静脈症候群、気道狭窄、心タンポナーデ、尿塞閉、急性腹症、脳圧亢進などの対処法の概要を説明できる。	99	46	0.456
Q5_6_1	がん性疼痛の種類と病態について説明できる。	134(83%)	65(94%)	0.026
Q5_6_2	進行期のがんにみられる食欲不振、悪液質、呼吸困難、倦怠感、浮腫、腹部膨満など身体症状の病態を説明できる。	132(82%)	60(87%)	0.352
Q5_6_3	がん患者にみられる不安、抑うつ、せん妄、適応障害、不眠など精神症状を説明できる。	133(83%)	61(88%)	0.268

	下記の疾患の症候、診断、治療、予後について説明できる。	プライマリ・ケア学会(n=161)	がん治療学会(n=69)	X <sup>2</sup> (p値)
Q5_7_1	原発性脳腫瘍	74	26	0.246
Q5_7_2	転移性脳腫瘍	70	27	0.541
Q5_7_3	眼腫瘍	59	22	0.486
Q5_7_4	頭頸部がん	69	28	0.749
Q5_7_5	乳がん	93	37	0.562
Q5_7_6	肺がん	92	37	0.622
Q5_7_7	転移性肺腫瘍	75	27	0.297
Q5_7_8	食道がん	85	30	0.195
Q5_7_9	胃がん	93	38	0.706
Q5_7_10	大腸がん	91	38	0.839
Q5_7_11	肝がん	89	35	0.525
Q5_7_12	胆道がん	78	26	0.133
Q5_7_13	膵がん	83	29	0.185
Q5_7_14	転移性肝腫瘍	73	27	0.384
Q5_7_15	卵巣がん	86	30	0.167
Q5_7_16	子宮がん	90	33	0.261
Q5_7_17	絨毛性疾患	64	25	0.616
Q5_7_18	腎がん	79	30	0.437
Q5_7_19	尿路がん	72	26	0.323
Q5_7_20	前立腺がん	84	34	0.687
Q5_7_21	甲状腺がん	76	29	0.470
Q5_7_22	副腎腫瘍	61	23	0.511
Q5_7_23	悪性黒色種	62	26	0.906
Q5_7_24	悪性骨腫瘍	65	26	0.702
Q5_7_25	転移性骨腫瘍	72	26	0.323
Q5_7_26	白血病	78	29	0.371
Q5_7_27	悪性リンパ腫	77	27	0.225
Q5_7_28	多発性骨髄腫	70	26	0.414
Q5_7_29	小児造血器腫瘍	67	22	0.165
Q5_7_30	小児骨軟部腫瘍	64	22	0.258
Q5_7_31	神経芽腫	65	21	0.153
Q5_7_32	小児腎腫瘍	64	22	0.258

		プライマ リ・ケア学 会(n=161)	がん治療 学会 (n=69)	X <sup>2</sup> (p 値)
Q6_1	入院・在宅患者の急変時の一次診療（アセスメント、インフォームドコンセント、検査、診断、治療）	124	54	0.836
Q6_2	時間外外来でのがん患者への対応	122	57	0.253
Q6_3	僻地のがん患者のフォロー（維持療法など安定した患者の診療）	134	58	0.877
Q6_4	病院での治療担当医師の診療補助（研修医の様な役割）	121	53	0.789
Q6_5	治療終了後の長期フォローアップ（全身状態のアセスメント、治療サマリー作成、健康教育、検診スケジュールの立案など）	125	52	0.707
Q6_6	病歴や生活歴の詳細な聴取	145	63	0.769
Q6_7	全身状態のスクリーニング的なアセスメント	132	61	0.225
Q6_8	必要な検査の確認、評価と加療	100	45	0.655
Q6_9	治療サマリー作成	105	57	0.008
Q6_10	健康教育（予防教育）	143	56	0.119
Q6_11	検診スケジュールの立案	131	49	0.081
Q6_12	地域の開業医や診療科医との連絡	139	61	0.669

## 6. 資料



**The Essentials of Doctoral Education  
for Advanced Nursing Practice**

October 2006

**TABLE OF CONTENTS**

	Page
<b>Introduction</b>	
Background	3
<i>Comparison Between Research-Focused and Practice-Focused         Doctoral Education</i>	3
<i>AACN Task Force on the Practice Doctorate in Nursing</i>	4
Context of Graduate Education in Nursing	5
<i>Relationships of Master's, Practice Doctorate, and Research         Doctorate Programs</i>	6
<i>DNP Graduates and Academic Roles</i>	7
<b>The Essentials of Doctoral Education for Advanced Nursing Practice</b>	8
I. Scientific Underpinnings for Practice	8
II. Organizational and Systems Leadership for Quality Improvement and Systems Thinking	9
III. Clinical Scholarship and Analytical Methods for Evidence-Based Practice	11
IV. Information Systems/Technology and Patient Care Technology for the Improvement and Transformation of Health Care	12
V. Health Care Policy for Advocacy in Health Care	13
VI. Interprofessional Collaboration for Improving Patient and Population Health Outcomes	14
VII. Clinical Prevention and Population Health for Improving the Nation's Health	15
VIII. Advanced Nursing Practice	16
<b>Incorporation of Specialty-Focused Competencies into DNP Curricula</b>	17
Advanced Practice Nursing Focus	17
Aggregate/Systems/Organizational Focus	18

ADVANCING HIGHER EDUCATION IN NURSING